

## 富士通

### 京都大学の次期スパコンシステムを受注 ～性能あたりの消費電力を85%削減～

京都大学学術情報メディアセンターは、全国に7つある全国共同利用情報基盤センターの1つとして、京都大学の学内利用者だけでなく、全国の大学・研究機関にも計算サービスを提供している。今回、学内外や他大学・研究機関における科学技術分野の計算需要に対応するために、現在稼動中である富士通のスーパーコンピュータ「PRIMEPOWER HPC2500」で構成されるスパコンシステムの後継機として、富士通のHPCサーバ「HX600」で構成する大規模クラスタシステムを中核とした、システム全体の理論ピーク性能は現行システムの7倍以上、総メモリ容量3倍以上、総ストレージ容量100倍以上の大規模システムへの刷新を決定した。

同システムは、筑波大学、東京大学、京都大学でハードウェア、基本ソフトウェア、ベンチマークテストの仕様の一部を共通化したT2Kオープンスパコン仕様に準拠しており、HX600を416台接続する大規模分散並列演算部では、理論ピーク性能61.2テラフロップス（毎秒1兆回の浮動小数点演算速度）の数値演算処理性能を実現する大規模システムである。また、現行システムから大幅に処理性能を向上させるとともに、システム全体の消費電力は現行システムと同等レベルに抑えられ、現行システムと比較した1テラフロップスあたりの消費電力としては85%の削減を実現。同スパコンシステムは、2007年12月に富士通が発表したグリーンITにより環境負荷低減を支援する「Green Policy Innovation」を推進するものである。

京都大学では、同システムを従来の大規模科学技術計算のほか、大規模ゲノム情報処理、超大規模アーカイブ検索、コンピュータグラフィックスなどの新しい応用分野での利用者の需要を満たす中核的な計算基盤システムとして活用しながら、筑波大学と東京大学と連携したグリッド技術などの研究を強力に推進していく予定である。

富士通(株) 関西営業本部 京都支社 第一営業部  
TEL : 075-252-9711

## ベリングポイント

### 「SAP ERP」を中核に 講談社の新基幹システムを構築

近年、出版業界は、読者ニーズの多様化、出版媒体のデジタル化などにより経営管理が複雑になっていた。講談社においても、書誌の収支情報のタイムリーな把握による迅速な意思決定、コンテンツを中心とした多メディアへの戦略的な展開などが求められていた。そこで、会計を中心とした基幹システムを刷新し、全社的な業務の標準化と、それまでバラバラであった各種コード体系の一元管理を図ることで、業務の効率化を図ることにした。

新システムの構築にあたっては、①会計領域の定評の高さ、②SAP導入の豊富な実績とノウハウ、③コンテンツビジネスにおける経験と実績が評価され、ベリングポイントが担当し、約12ヵ月という短期間での稼働を実現した。またプラットフォームには、SAPにおける導入実績のもっとも多い日本HPが採用され、インフラストラクチャの構築も担当した。

SAPの基幹業務システムである「SAP ERP6.0」を採用し、統合マスタ管理ソリューションの「SAP NetWeaver Master Data Management」により、取引先等の各マスタの一元管理を図り、データウェアハウスソリューションの「SAP NetWeaver Business Intelligence」により、製品／コンテンツ別、取引先別、組織別等による多面的な情報の収集・分析の仕組みを実現し、将来のビジネス環境に対応できる拡張性のある戦略的な情報活用基盤を構築した。サーバにはAMD64テクノロジーを搭載した業界標準x86サーバ「HP ProLiant DL585」および「DL385」を採用。「Windows Server」、「SQL Server」をベースとしたシステム主要部分はクラスタ構成とし、高い可用性を持たせている。そしてストレージには「HP StorageWorks 8000 Enterprise Virtual Array」を導入。「HP StorageWorks Business Copy EVA」のテクノロジーを活用して、本番システムに負荷をかけずにバックアップを行うことが可能にした。

ベリングポイント(株)  
E-mail : fmjpinfo@bearingpoint.com